

教育支援センターだより

Education Support Center Report

2018.1.12 文責 田中 径久

Semester活動, 頑張っています

3回生を対象にした実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) が12月末で一区切りを迎えました。

実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) は、本学より近隣市郡 (米子, 境港, 松江, 隠岐) の公立幼稚園, 小・中学校へと活動の募集を依頼しています。本年度は、67学校より98活動の募集をいただきました。

実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) へ参加希望した学生は、大学で担当教員より事前指導を受けてから活動を始めます。全ての活動が終了すると、再び担当教員より事後指導を受け、活動の成果や課題を明らかにしていくというのが一連の流れとなっています。

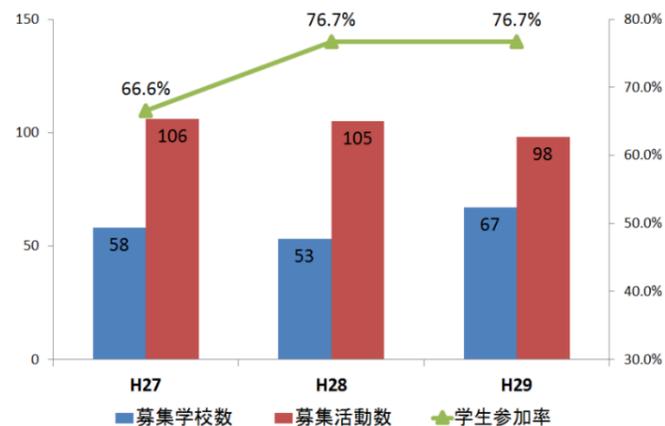
本年度の実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) に参加した学生と事後指導を行う中で、充実した活動ができたことを喜ぶ声が多く聞かれました。1月から継続的に活動に臨んでいる学生もいます。また、受け入れ先の学校側からは、多くの肯定的な感想をいただきました。

3回生には、この実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) で得られた経験を今後の自分自身の進路に生かしてもらいたいと願うばかりです。

実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) の実際について

下図は、実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) の推移を表したグラフです。本年度の募集学校数は昨年度よりも増えました。なお、募集活動数が減っているのは各学校が活動を統合したからです。このことより、実習 Semester活動 (スクール・インターンシップ) が、各学校に浸透してきていると分かります。その中でも、本年度は67の募集学校に対して、50の学校に学生が参加しました。このことから、募集があった学校の約4分の3の期待に応えることができたといえます。なお、近隣市郡以外の学校へと参加を希望する学生もいて、オプションとして受け入れてもらいました。今年度、島根県内では21校、鳥取県内では6校です。

学生参加率は76.7%ということで、昨年同様、高い割合で積極的に参加していることが分かりました。



受け入れ先の学校側の感想について

○初めての幼稚園で初対面の子ども達ですが、積極的に話しかけておられました。今回の行事、餅つきに関して職員がお願いした事をてきばきとこなし、よく手伝ってくださいました。

○限られた日数でしたが、積極的に子ども達と関わり、誠実に活動しておられました。大変意欲的で、社会人としての心構えも備わっている優秀な方を派遣していただきとてもありがたかったです。

○公立学校の児童の実態や様子を理解してもらえたと思う。2名の学生とも意欲的で学ぼうという姿勢が見られた。附属小・中学校だけでなく公立学校に実習 Semester活動に行かせるべきだと感じている。きっと現場の先生方の動きや授業を見ることが必ず役に立つ。

○担当学年の児童と遊びを通して積極的に関わって、それが学習支援にも良い効果があらわれていた。また、学校行事において職員の動きを見て、すすんで動いている姿に好感が持てた。本校職員の子供達への関わり方を見て、「次は、~しよう。」と意欲を持って活動に取り組んでいた。

○礼儀正しく、時間等も守られていた。生徒たちから何かを学びとろうとする姿勢が見られた。エネルギーがありコミュニケーション能力も高く、授業補助も多くやってくれた。

○児童の様子を観察しながら、そばで優しく声がけをしたり児童に丁寧に説明したりして一緒に作業や学習をしてくれました。とても真面目に取り組んでくれました。あいさつも言葉遣いも丁寧でした。特別支援学級の児童なので、実習 Semester活動に参加している学生さんが児童に合わせて接しようとされたことでおだやかに過ごすことができました。

○2年生の職場体験学習や宿泊体験学修の支援や補助を主な活動として意欲的に行った。課題意識を持って前向きに取り組んだ。教育実習を終えている学生であり、生徒への接し方が上手く、また意欲的に支援にあたっていた。

○教職を目指す学生が多く、授業中の学習支援をすると共に授業中メモを熱心取るなど、目的意識が高かった。多くの教員から例年以上に良いとの声が出ていた。礼儀のしっかりした学生が多く、子どもへの接し方も良かった。頼まれた仕事も確実に処理し、さらに自分から仕事を見つけて取り組む姿が見られた。



幼稚園児に笑顔で声をかける様子



小学生に学習支援をする様子



中学生にサイエンス教室を行う様子